

2) 産業廃棄物

マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルがなされている量の合計を「プラスチック有効利用量」とする。

また、減量化による単純焼却及び最終処分量と、「プラスチック有効利用量」の合計を「プラスチック排出量」とする。

「プラスチックの有効利用率」は、「プラスチック有効利用量」を「プラスチック排出量」で除して算定する。

【参考1】国の通知文書（2020.3.16）

「廃棄物処理法に基づく基本方針」は、大幅な変更の必要がないことから改定せず、第4次循環型社会形成推進基本計画（2018.6）で記載されている以下の数値目標を「都道府県廃棄物処理計画」の改定の参考とするよう通知があった。

区分	基本方針における 目標項目	2018年度実績	参考となる数値目標（2025年度）	2018年度比
一般廃棄物	排出量	4,272万トン	約3,800万トン	▲11%
	再生利用率	19.9%	一般廃棄物の出口側の循環利用率 約28%	+41%
	最終処分量	384万トン	約320万トン	▲17%
	1人1日当たりの 家庭系ごみ排出量	505g/人/日	約440g/人/日	▲13%
産業廃棄物	排出量	3億7,577万トン	約3億9,000万トン	+4%
	再生利用量の割合	35.6%	産業廃棄物の出口側の循環利用率 [†] 約38%	+10%
	最終処分量	931万トン	約1,000万トン	+7%

[†] 動物のふん尿のうち、何らかの処理をされることなく農地に還元されている量「自然還元量」を除く

【参考2】プラ戦略の目標

- ① 2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制
- ② 2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル
- ③ 2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用
- ④ 2030年までに再生利用を倍増
- ⑤ 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入

3. 目標値設定の基本方針

目標値は、国が示す数値目標や大阪府の関連計画（食品ロス削減推進計画や地球温暖化対策実行計画（区域施策編））を踏まえて、次回以降検討する。

(1) 一般廃棄物

	目標項目	大阪府の特徴	目標値の設定方針
(1) 国 が 定 め る 項 目	① 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は全国で46位と多い。 (府307万トン、全国：21~438万トン) ・事業系排出量は、全体の約4割と他府県と比べて割合が多く、資源化できる紙や産業廃棄物である廃プラスチックが多く含まれている。 ・家庭系排出量は、市町村の3Rの取組により一定削減しているが、食品ロスやワンウェイプラスチック容器包装等が多く含まれている。 	2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の削減効果を見込んで、 国の削減目標と同等（2018年度比11%削減）の目標値を設定。
	② 再生利用率	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に全国で45位と低い。 (府13.3%、全国平均19.9%) ・事業系排出量が全体の約4割と多く削減が進んでいないことと、市町村を介さずに民間に直接資源物が排出されるなどにより市町村が回収する資源物が少ない。 	国の再生利用率の目標（2025年度：約28%）を考慮しつつ、 2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の効果を見込んで、府の現状に合った目標値を設定。 なお、新聞等の紙の資源物が大きく減少していることも踏まえて目標値を設定する必要がある。
	③ 最終処分量	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は全国で47位と多い。 (府37万トン、全国：1~37万トン) ・排出量が多く再生利用量も少ないことから多くなっている。 	2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の削減効果を見込んで、 国の削減目標（2018年度比17%削減）と同等の目標値を設定。
	④ 1人1日 当たり 生活系ごみ 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度は全国で4番目に少ない。 (府450g/人・日、全国平均505g/人・日) ・2019年度は国の目標値に近く、これまでの推移を考慮すると目標達成できる可能性が高い。 	府の現状を踏まえつつ、 2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の削減効果を見込んで、国の数値目標（440g/人・日）よりも少ない目標値を設定。
(2) 府 独 自 項 目	① 容器包装 プラスチック 排出量	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック製容器包装を分別している35市町村でも、可燃ごみに約1割含まれている。（分別しない8市町は約2割） 	府の現状を踏まえつつ、 プラ戦略の目標（2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%削減）の達成を見据えた2025年度の目標を設定。

	目標項目	大阪府の特徴	目標値の設定方針
(2) 府 独 自 項 目	② 容器包装 プラスチック 再生利用率		府の現状を踏まえつつ、 プラ戦略の目標（2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル）の達成を見据えた2025年度の目標を設定。
	③ プラスチック 有効利用率	<ul style="list-style-type: none"> 大阪府内では、全市町村がペットボトルを、35市町村がプラスチック製容器包装の分別回収を実施。 42市町村が、焼却工場において、プラスチックを焼却した排熱を温水又は発電に使用。 	府の現状を踏まえつつ、 プラ戦略の目標（2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用）の達成を見据えた2025年度の目標を設定。

(2) 産業廃棄物

	目標項目	大阪府の特徴	目標値の設定方針
(1) 国 が 定 め る 項 目	①排出量	<ul style="list-style-type: none"> 都市部は下水道普及率が高いことから、下水汚泥が産業廃棄物の排出量の半分程度を占めているため、再生利用率は全国平均より低く、減量化率が高い傾向にある。 	国の目標（2018年度比4%上昇）を考慮しつつ、 2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の削減効果を見込んで、目標値を算出し設定。
	②再生利用率	（再生利用率） 大阪府：32.4%（2019年度） 東京都：33.9%（2017年度） 全 国：52.4%（2018年度）	府の現状を踏まえつつ、 2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の効果を見込んで、目標値を算出し設定。
	③最終処分量		国の目標（2018年度比7%上昇）を考慮しつつ、 2025年度単純将来値に大阪府の現状と課題を踏まえた施策の削減効果を見込んで、目標値を算出し設定。
(2) 府 独 自 項 目	③ プラスチック 有効利用率	廃プラスチック類の再生利用率は 56% 、発電・熱利用を加えた有効利用率は 68% となっている。	府の現状を踏まえつつ、 プラ戦略の目標（2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイクル等により有効利用）の達成を見据えた2025年度の目標を設定。